



第90回日本皮膚科学会東京支部学術大会

ランチオンセミナー8

ダウンタイムは 我慢して当たり前？

日時 2026.11/15(日) 11:30-12:30

会場 第1会場 京王プラザホテル5F エミネンスホール



川島 眞 先生

東京女子医科大学 名誉教授



美容医療におけるダウンタイムマネジメント
—治療効果と患者満足度を両立するには—



小林 美幸 先生 (聖心美容クリニック 熱海院 院長)



ダウンタイムマネジメントも
エビデンスに基づく時代へ



川島 裕平 先生 (東京都済生会中央病院 皮膚科)



美容医療におけるダウンタイムマネジメント ー 治療効果と患者満足度を両立するには ー

小林 美幸 先生

聖心美容クリニック 熱海院 院長

近年の美容医療では、治療効果のみならず、治療後のダウンタイムの有無が患者の治療選択や治療継続率にも影響するようになってきている。患者は高い治療効果を求める一方で、「仕事を休めない」「周囲に気づかれない」といった社会的背景から、ダウンタイムの程度に関しても興味を示す傾向にある。そのため現在の美容医療では、「効果の最大化」と「ダウンタイムの最小化」という、一見相反する課題への対応が求められている。

本講演では、当院で実際に行われているレーザー・RF治療、マイクロニードル治療、注入治療などを例に、それぞれの適応、治療効果、およびダウンタイムの実際について症例写真を交えて紹介する。さらに、術前カウンセリングや術後スキンケア、鎮静パック、クーリングなどを活用したダウンタイム軽減・短縮の実践的手法について解説する。

美容医療の本質は患者をより美しく導くことにあり、そのためには治療効果の最大化だけでなく、ダウンタイムの適切なマネジメントが必要である。治療効果を損なうことなく患者負担の軽減を図る、実践的かつ日常診療に応用可能なダウンタイム対策について考察する。



ダウンタイムマネジメントも エビデンスに基づく時代へ

川島 裕平 先生

東京都済生会中央病院 皮膚科

美容皮膚科施術が幅広い世代に普及し、患者がより高い治療効果を期待するなかで、施術後のダウンタイム症状（紅斑、腫脹、乾燥、出血、疼痛など）への対応が求められる場面も増えている。このような背景から、これらの症状に対する適切なマネジメントの重要性が高まっている。

そこで、過去1年以内にダウンタイムを伴う美容皮膚科施術を受けた20～50代女性321名を対象に、施術後のダウンタイムに対する認識や負担、スキンケア製品選択の判断基準についてインターネット調査を実施した。ダウンタイムマネジメントでは、皮膚バリア機能の保護を目的とした保湿、紫外線対策、摩擦などの刺激回避が基本とされ、一般的にはワセリンや低刺激性スキンケア製品が用いられている。一方で、そのマネジメントに関する臨床的エビデンスは十分とはいえない。

今回、顔面に対するダーマペン施術後の患者を対象として、グディス® モイスチャライジングローションのダウンタイム軽減効果および安全性を評価した結果を報告する。さらに、患者意識に関する調査結果も踏まえ、エビデンスに基づく患者視点のダウンタイムマネジメントのあり方について考察する。